

27年9月議会

期日前投票所の拡大について

質問

次に、期日前投票所の拡大についてでございます。

間接民主主義において利益団体や業界団体等が特定の政党や候補を応援することはあってしかるべきですが、投票率が下がり、各種団体の力が政策決定の場において大きくなりすぎることについて私は問題視しております。

投票率向上のために、前任期から期日前投票所の拡大について提案をしてまいりました。公職選挙法が改正され、来年夏の参議院議員選挙から18歳以上の男女に選挙権が認められることとなり、若者の投票率向上についても着目されています。若者がふだん行くような場所に投票所を設置することによって、選挙に対する関心を惹起することも可能と考えますし、近隣市において、豊中では大阪大学に設置、西宮ではららぽーとで設置と、進んできています。

吹田市における期日前投票所の問題点は、2カ所いずれも阪急沿線ということで、JR、北大阪急行を通勤・通学手段とされている方にとっては利便性が低い点が挙げられます。選挙結果調べを見ておりまして、大規模店舗店内及び商店街内放送による啓発もされているということなので、啓発を聞いてすぐに投票に行けるような環境や選挙が市民にとってより身近に感じる投票所の設置、また大学と協力しての構内での設置や、阪急以外の沿線への設置など、来年夏までに検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

吉川英次選挙管理委員会事務局長

期日前投票所は、平成15年6月の公職選挙法の改正により、仕事や用務のため投票日当日に投票に行けない方のために設けられた制度でございます。

本市におきましては、当初、吹田市役所3階の選挙管理委員室においてのみ開設してまいりましたが、平成23年執行の大阪府議会議員選挙から南千里駅前の旧千里市民センターにも増設し、現在、千里ニュータウンプラザで開設しておるところでございます。

また、本庁の期日前投票所につきましては、平成26年の衆議院議員総選挙から中層棟1階正面玄関に移設し、有権者の利便の向上を図ってまいりました。こうしたことにより、期日前投票所で投票をする方は毎年増加をしております。

具体的に申しますと、衆議院総選挙では、期日前投票所での投票者数は平成21年では2万2,576人、全投票者数の11.46%、平成24年では2万2,766人、全投票者の12.65%、平成26年では2万5,074人、全投票者の15.56%と増加してきております。

しかしながら、投票率は平成21年の69.84%、平成24年は63.25%、平成26年は55.68%と低下してきております。

また、市議会選挙におきましても平成23年と平成27年を比較しますと、期日前投票者数

は8,371人ふえているにもかかわらず、投票率は49.71%から49.09%と0.62ポイントの減少となっております。

こうしたことから、投票期日に投票されていた有権者が前倒しで期日前投票所で投票されているのではないかということが推察されます。

また、大学等の学校施設での期日前投票所の開設についてでございますが、近隣の豊中市の大阪大学キャンパスで開設されました期日前投票の実績は、火曜日と水曜日の正午から午後7時までの2日間限定で開設され、近隣住民も含め約350人が投票されたと仄聞しております。主に啓発的意味合いの強い期日前投票所となっております。

選挙管理委員会としましては、このような期日前投票の状況を十分勘案しながら、今後、大学での期日前投票所の開設や新たな増設も視野に、まずは地道な有権者への利便の向上を続けることにより、投票率の向上につなげてまいりたいと考えております。

これまで、そうしたことの 일환としまして、有権者数に応じた投票区の区割りの見直しや、投票所設置場所の見直しを検討、実施をまいりました。

あわせて、来夏の選挙権年齢の18歳への引き下げを見据え、本年9月11日には吹田市明るい選挙推進協議会と共催で白バラ講座としまして関西大学名誉教授の土倉莞爾氏を講師に迎え、18歳選挙権を考えると題したシンポジウムを開催し、若者の投票率向上に向けた講座を実施してまいりました。

今後、既に連携しております関西大学とは、引き続きどのようなことができるのか協議を継続してまいりますとともに、投票率向上を目指す学生団体であるi v o t e関西や市内の他大学や高校とも連携し、啓発活動を実施してまいります。

以上でございます。

意見

御丁寧な答弁ありがとうございます。

聞いておりますと、期日前投票所の設置と投票率向上については因果関係がないような御発言があったんですけども、当然、それだけで投票率が上がれば何も苦勞するわけではなくてですね、さまざまな啓発が必要だなと感じる中で、今もね、啓発を行っていただいていると、i v o t e等も協力して、関西大学とも協力してやっているということなんですけども、一度ね、数値目標等を持って事業をなさると効果が上がるのではないかなというふうに感じます。

当然、その選挙に対する市民の注目度等も関係してくるところではございますけども、その注目度に左右されるのではなくて、選挙に行くのは当たり前というような、そういうような状況をつくり出すことも市として大事ななと思います。

私たち議員は、現在は有志でございますが、議会報告会を行うことで市民に吹田市政への関心を持っていただこうと努力しているところでございますので、ぜひとも選管も積極的にさまざまな面で協力いただけますように要望いたします。